



藤谷 謹至
議員
(拓政会)



高齢者人口の増加に伴い、高齢者等交通弱者の移動に対応するため将来にわたりその手段を確保することが自治体に求められている。

幕別町においては、まぐバス、さつバスのコミュニティバス（以下「コミバス」という）、古舞線、駒島線の予約型乗合タクシーが運用されており、幕別町地域公共交通システムが構築されつつあると認識している。しかし、忠類地域においては公共交通空白地域が存在する状況にある。以下の点について伺う。

(1) コミバス、予約型乗合タクシーの利用状況と効率的に持続するための今後の方策について。
(2) 外出支援サービスの登録者数と地域別利用状況および今後の方策について。
(3) 公共交通空白地域である忠類地域における公共交通の今後の方策について。

町長
(1) コミバスと予約型乗合タクシー

問 高齢化の進行に伴う交通弱者の効率的な地域公共交通システムの構築
答 引き続き地域の皆さんの意見を伺い、公共交通のあり方について検討していきたい

の利用状況は次表のとおりで、徐々にコミバスの認知度が上がり、利用者が増加してきている。

【H 26 コミバスの利用状況】

	まぐバス	さつバス	計
利用者数	3,637 人	6,130 人	9,767 人
1日平均	14.8 人	24.9 人	39.7 人
1便平均	3.0 人	5.0 人	4.0 人

	4～9月	10～3月	増減
利用者数	3,620 人	6,147 人	2,527 人の増
1日平均	29.0 人	50.8 人	21.8 人の増
1便平均	2.9 人	5.1 人	2.2 人の増

【H 26 予約型乗合タクシーの利用状況】

	駒島線	古舞線
利用者数	351 人	597 人
1日平均	1.4 人	3.2 人
運行回数	255 回	308 回
1日平均	1.0 回	1.7 回

※古舞線は9カ月間の実績

今後の方策については、出前講座での周知に加え、図書館で開催の「コミバスde映画会」などのイベントでのPRや体験乗車会、バス内での作品展示などを開催することにより、多くの人に親しまれるバスとなるよう努めていく。

(2) 幕別地域では、自宅から管内の医療機関への受診や行事への参加、買い物などを利用の範囲としているが、忠類地域では、忠類と

大樹町の医療機関への受診を目的とする利用に限定して運行している。高齢化が進展していく中で、公共交通等の移動手段との整合を図り、事業の在り方について速やかに一定の方向性を見出し、いかなくてはならないと認識している。

【H 26 外出支援サービスの利用状況】

	幕別	忠類
登録者数	301 人	24 人
利用者数	215 人	24 人
利用回数	2,247 回	240 回

(3) 忠類地域でのコミバスや予約型乗合タクシーの利用が少ないのではないかと、意見をいただいている。高齢化が進行しており、引き続き検討したい。



再質問 (1) コミバス停留所のベンチおよびAED（自動対外式除細動器）の設置をしてはどうか。
(2) 外出支援サービスの柔軟な運用について。
(3) 忠類地域の実現可能な公共交通について。

答 (1) ベンチを設けるといいうのは歩道の交通の妨げがないよう十分考えなければならぬ。AEDは学校など主たる公共施設に設置しているのが現状であり、どこまで設置すれば充足するのが問題である。

(2) 外出支援サービスについては、ワゴン車1台で運行していることから、行きはサービスを利用したが、帰りは診療時間が延びて利用できないなどの事例もあったかと思う。今後、大幅な利用時間とはならないと思うが、できるところは柔軟に対応していきたいと考えている。

(3) 高齢者が増えれば需要は増えてくるので、常に住民ニーズを伺いながらどうあるべきか検討していきたい。公共交通の部分、外出支援サービスも含めてトータルとして、どういった足の確保ができるのかを考えていきたい。